

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	生活援助技術 I 食事		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	12 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1学年		学期及び曜時限	前期	教室名	1年生の教室及び実習室
担 当 教 員	吉村 麻衣子	実務経験とその関連資格	看護師として病院経験5年			
《授業科目における学習内容》						
人間にとっての食事の意義を考え、対象が健康的な生活を送るために必要な基礎的知識と援助技術を習得することが出来る。						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験、レポート課題、出席率や態度も含めて総合的に評価します。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
ナーシンググラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 MCメディカ出版(デジタル版)						
・指定した教科書範囲を事前に読み、分からない用語を確認しておく。						
《履修に当たっての留意点》						
実習に繋がられるような授業にしたいと思います。意欲的に学習に取り組んで下さい。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	食事の生理・心理的・社会的な意義を述べる事が出来る。	シラバス 資料 教科書 パソコン	教科書P264～P267を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	・シラバスと授業のルール及び、授業の進め方について ・日常生活における食事の生理・心理・社会的な意義と看護の役割			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	嚥下のメカニズムを理解することが出来る。	教科書 資料 パソコン	教科書P268～P271を読んでおく 消化・吸収について学習しておく	
		各コマにおける授業予定	・食事に関する基礎的な知識 ・食物を咀嚼・嚥下するメカニズム ・消化と吸収について(解剖生理学)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	栄養障害が身体や生活に及ぼす影響について考えることができる。	教科書 資料 パソコン	教科書P272～P283を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	・栄養状態及び食欲・摂食能力に関するアセスメントの視点 ・食事療法について ・食事摂取の介助①			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	食事摂取の介助、経管栄養の援助について理解し、実践に繋がられる知識を習得することが出来る。	教科書 資料 パソコン	教科書P284～P288を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	・食事摂取の介助② ・摂食・嚥下訓練について ・経管栄養法 ・中心静脈栄養法			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	食事行動に障害がある患者への基本的な食事介助の方法を実施することができる。	教科書 資料	食事摂取の介助の学習内容の復習	
		各コマにおける授業予定	・模擬患者を設定し、食事介助の演習の実施する。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	患者・看護師・観察者役割を通しての双方の気づきと理解を深めることができる。	教科書 ワークシート	今までの講義内容に目を通しておく
		各コマにおける授業予定	・食事介助の振り返り ・講義の総まとめ		
第7回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第8回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			